

## 変わる大連ソフトウェアパーク

岡山県上海事務所 担当 崔笙

(日中経済貿易センター上海事務所)

大連ソフトウェアパーク(=大連软件园、略称 DLSP)は 1998 年に大連ハイテクパーク(大連高新区)に設立された“民間“のソフトウェアパークである。中国で随一の豊富で優秀な日本語人材供給地である大連の好条件を活かし、数多くの日本向け IT 業務を牽引してきた。しかし、近年の世界経済の変化を受け、企業の淘汰が起き変貌しつつある。今回、同パーク関係者より聞き取った内容をもとに、現状を紹介したい。



※大連ソフトウェアパーク事務所塔

### 【人材と対日業務】

現在の場所に大連ソフトウェアパークを設立した理由は、周辺に大学が多いことがあげられる。大連理工大学、大連海事大学、東北财经大学等の重点大学のほか、日本語教育で名高い大連外国語大学や遼寧師範大学など枚挙にいとまがない。重工業を主要産業としてきた東北地域には優秀な理系大学も多く、大連以外ではハルビン工業大学が代表的なものであろう。また、大連の日本人は定住者が 4,000 人ほど、出張者を合わせると 7,000～8,000 人であるが、大連ソフトウェアパークで働く日本人は 100 人前後と、大連ソフトウェアパークそれほど多くない。

大連ソフトウェアパークの主要業務は①ハードの建設、管理、運営 ②関連教育機関への投資 ③ベンチャー企業への投資、インキュベータの設置などである。入居企業は 255 社と以前と比べて減

少している。日本企業にとっても中国のコストの強みが消えつつあるため、新規投資もそれほど多くはない。

但し、入居率や規模の水準が下がっているわけではない。企業数が減った理由の多くが買収や淘汰であり、欧米企業の進出スピードは落ちていない。日系企業の比率は 20%で、対日業務のみを行っている。その他の外資系企業は約 60%で、対日、対韓、対英語圏の 3 チームを有する企業が多い。欧米系企業が対日業務を行うため、対日業務規模そのものはやや拡大しているといえる。

最近では、ファイザーやアディダス、TDK など本業は IT に関係しない企業が、グループ内業務拠点として進出する例も増えている。更に、中国で華為技術向けの業務を行う日立システムソリューションズのような企業も増えてきたのも最近の特徴である。

そのほか、最近の傾向として、日本のマイナンプー一制度の開始や銀行の統合などを背景に日本での IT 人材が不足していることや、中国 IT 企業の日本進出により、大連ソフトウェアパークにおける日本向け IT 人材の需要が高まっている。そのため、各社とも現有の従業員教育に力を入れるようになっており大連ソフトウェアパークの日本語教育の受講申込は日系、外資系問わず殺到している。

### 【今後の事業展開に向けて】

以前、大連で IT 事業を計画しながら、実現しなかったということがあれば、現在の大連ソフトウェアパークを再訪し、現地の活力を肌で感じていただいた上で、新たなビジネスを検討されるのもよいのではないだろうか。

(2016 年 11 月)